

超人気FP!

— ABC ネットニュース —

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2016年7月7日

今月のトピックス 「国の連結純債務は減少している」

遅きに失したかもしれませんが、「わが国の債務は連結ベースで見ると純債務は減少している」と言えば、大多数の人はウソだろうと思うに違いありません。私たちは知らず知らずのうちに財務省が煽動する各種報道により、国は借金まみれと刷り込まれているからです。曰く、わが国の借金は既に1100兆円を超え、GDP（国内総生産）の2.5倍が視野に入る、財政破綻したギリシャよりも財政は悪い等々が、正しい国の債務の捉え方だと認識しているのが一般的なのです。なぜなら、連結ベースを含め国の貸借対照表（バランスシート）の中身を検証する人はいないから。否、テレビや新聞などに出ている肩書きのある専門家（学者や教授）が、したり顔でわが国の財政は危ないと言えば、ほぼ100%信じてしまうのです。締めは「だから消費税引き上げなどの増税が必要となる」ちゃんちゃんというところでしょうか。

確かに、国の借金額は1100兆円を上回り、GDPの2.5倍が視野に入っているのは事実ですが、それは貸借対照表の「負債の部」だけの話であって、「資産の部」と合算した「純負債」で判断するのが正しい判断の仕方なのです。

図は、2014年（平成26年）度の国の連結ベースの貸借対照表です。前年度の数字も合わせて載せていますが、負債合計は前年度より57兆円増加して1371兆円。既にGDPの2.8倍近くまで増加しています。1年間でGDPの約11%も増えているのですから、アベノミクスで税収が増えたなどと喜んでいるわけにはいきません。しかしながら、資産合計は前年度より68.9兆円も増加して932兆円となっているのです。資産の増加分で債務の増加分をカバーできたこととなります。では、負債合計と資産合計を相殺した「資産・負債差額」を見てみると前年度と比較して11.6兆円減少して439.4兆円に過ぎないのです。GDP比に直せば約89%です。

平成26年(2014年度)国の連結貸借対照表

資産の部	平成25年度	平成26年度	負債の部	平成25年度	平成26年度
現金・預金	49.4	73.0	未払金等	16.4	18.4
有価証券	309.3	348.5	政府短期証券	99.1	96.5
たな卸資産	5.6	5.3	公債	661.8	716.0
未収金等	13.9	13.8	独立行政法人等債券	48.5	49.0
貸付金	183.3	184.1	借入金・預託金	40.7	40.0
貸倒引当金等	▲4.6	▲4.0	郵便貯金	175.3	175.7
有形固定資産	266.0	268.1	責任準備金	105.4	103.3
無形固定資産	1.2	1.2	公的年金預り金	115.8	117.3
出資金	14.6	15.9	退職給付引当金等	15.4	13.8
未払承諾返還等	2.7	2.9	支払承諾金・その他負債	35.8	41.4
その他資産	21.7	23.3	負債合計	1314.2	1371.5
資産合計	863.1	932.1	資産・負債差額	▲451.0	▲439.4

※出所：財務省HP平成26年度「連結財務諸表」の概要より、単位＝兆円

債務超過、かつ資産、正確には有価証券、現金・預金の増加に負うところが大きいので、胸を張れる状況ではありません。ですが、有価証券の価格は水物なので、百歩譲って有価証券、現金・預金が増えていない状況で債務だけが増えたとしても、資産・負債差額は502.4兆円。GDP比は約102%に留まるのです。褒められた状況ではありませんが、少なくとも危機的状況とあおり立てる程でもありません。国の借金を論じるならば、そもそも国が932兆円も資産を保有する必要があるのか同時に論じなければならぬのです。（GDPは490兆円として計算しています。）